

大フォーラム実行委員会ニュース

私たち抜きに 私たちのことを決めるな！～大フォーラムを続けるぞ！！

「骨格提言」の完全実現を求める 10.30 大フォーラム実行委員会 2014 年 12 月 10 日発行

【事務局】 〒154-0021 東京都世田谷区豪徳寺 1-32-21 スマイルホーム豪徳寺 1F

自立生活センターHANDS 世田谷気付 TEL 03-5450-2861 / FAX 03-5450-2862 / Email hands@sh.rim.or.jp

「骨格提言」の完全実現を求める 10.30 大フォーラム 日比谷野外音楽堂に 850 人が結集！



2014 年 10 月 31 日に、「骨格提言」の完全実現をめざす 10・30 大フォーラムが日比谷野外音楽堂で開催され、約 850 人が結集しました。ご賛同・ご協力くださいました皆さんに、報告ニュースをお送りします。

【実行委員長メッセージ】

参加・賛同してくださった皆様、どうもありがとうございました。

5 年前のことが思い出されて仕方ありません。日比谷野音の集会にて当時の厚生労働大臣の長妻さんが私たちの前で謝罪して、もっと良い制度をつくるということを確認しました。

それは画期的なことでした。障害者の集会で 1 万 2 千人が集まりました。あれから一応国内法が整備されて今年の 1 月には障害者権利条約がやっと批准されました。ところが、政権が戻ったところで権利条約とは全然違う「命を脅かす問題」がいろんなところで噴出しています。私たちはこの 10 月の末の闘いを継続していくのが、本当の意味の力になると思って今年はりレトークを行いました。2 年前の厚労省前での集会は 30 人でした。昨年 の弁護士会館での集会は 300 名集まりました。そして、今回は日比谷野音で 850 人集まりました。これも皆様の力の結集だと思っています。10.31 の行動は毎年続けていきたいと思っていますので、ぜひこれからもご協力お願いいたします。

「骨格提言」の完全実現を求める 10.30 大フォーラム実行委員長 横山晃久

多様なテーマを当事者がアピール



るが超えなければならない壁がいくつもある。」と指摘しました。

現場からのリレートークでは、様々な課題が浮き彫りになりました。

「精神障害者の差別と隔離に抗して」では、全国「精神病」者集団の山本眞理さんとあおば福祉会の田中直樹さんが発言。「国連人権委員会では日本の精神病院の悪評ぶりがとどろいていた。病院の看板架け替えに過ぎない『病棟転換型居住系施設』を許さない。障害者権利条約は批准されたが『私たち抜きに』政策が決められている。医療主導の中で、管理・監視体制が地域に作られようとしている。私たちは医療に支配されたくない。道路交通法が精神障害者差別に改悪された。強制入院の恐怖の中で生きている。施設・病院から仲間を取り戻そう。」

宇都宮健児さんは反貧困ネットワークを代表して発言。「障害者権利条約で障害者は保護の対象から権利の主体になった。骨格提言の完全実現を支援していきたい。貧困率 16%。中でも母子家庭の貧困率は大幅に悪化している。生活困窮者が増えれば生活保護利用者が増えるのは当然。バッシングを利用して安倍政権は平均 6.5%、最大 10%も大幅に引き下げようとしている。それに対して 1 万人を超える異議申し立てがあった。政府は住宅扶助、冬季加算も引き下げようとしている。安倍政権はたたきやすい生活保護から社会保障全体を改悪しようとしている。消費税を上げる一方で社会保障には回さない。安倍政権と闘おう。」生活保護受給当事者の川西浩之さんも「住宅扶助が引き下げられれば、施設に行くことになる。私たちは施設に行きたくない！」と訴えました。

インクルーシブ教育については、全国障害者学生支援センターの殿岡翼さんと、障害のある子どもの親のつきそいなくそう！全国キャンペーンの名谷和子さんから発言がありました。「権利条約と差別解消法を機にインクルーシブ教育をすすめよう。」「共に生きる社会は、共に学ぶ教室から。」

65 歳介護保険適用の問題では怒りネットの 3 人沼尻好夫さん、沼尻かつえさん、関根善一さんが発言しました。「65 歳になるのを前にして県と市と交渉した。県との話し合いでは必ずしも介護保険を使わないでもいいとなった。市は県を悪者にして言い逃れしようとした。暫定的に 3 か月間認めさせ、さらに主治医の診断書をもって交渉して継続的に総合支援法を認めさせた。」「連れ合いが

基調報告では、「骨格提言を無視し裁判の和解合意をひっくり返す総合支援法に、日本に民主主義はあるのか。骨格提言の完全実現を闘って実現しよう」と提起されました。

連帯メッセージとして、福島みずほ参議院議員が「秘密保護法の精神障害者差別を糾弾し、差別撤廃へ社会をつくりかえよう」と訴え、藤岡毅弁護士は「権利条約批准した後も、差別・虐待事件が相次いでいる。法整備がされてい

65 歳になって、2 カ月ごとに契約期間を切って総合支援法を認めさせている。介護保険は申請主義なので申請しないでもいいのです。一人で闘わせないで大勢で支援していこう。」

出生前診断については、神経筋疾患ネットワークの見方信子さんが「障害があると不幸せな人生だと誰が決めたのか？それは世の中の勝手な価値観だと思う」と訴えました。

「尊厳死」の法制化については ALS さくら会の橋本操さんと川口有美子さん、加えて

立命館大学の立岩真也さん「尊厳死の法制化というのは、障害を持って生きるよりも、死んだほうがましということを国が言うこと」「欧米は呼吸器をつけないといことを認めたために、どんどん認めてしまった。日本は手前で踏みとどまっている。ともに闘いたい」。



難病については、筋痛性脳脊髄炎の会の篠原三恵子さんと障害連の白井誠一朗さんが発言、「慢性疲労症候群 4 人に一人が外出もできない状態であるにもかかわらず、30 万人の患者のうち 50 人ほどしか障害者手帳を持っていない。権利条約の批准の喜びの片隅で恩恵の受けられない難病者がいることを忘れないで」。

女性障害者の状況を DPI 女性障害者ネットワークの南雲君江さんが「女性障害者は障害を持ち、また女性であるということで、二重の差別を受けている。差別解消法の基本方針に障害女性の条文を入れることを求める」と発言しました。

介助労働者の立場からは、かりん燈関東の小金菜穂子さんが「誰もが地域で暮らすためには、たくさんの方が介助を目指し、介助を続けていける環境整備が必要」と訴えました。

知的障害者の施設虐待の問題について、ピープルファーストジャパンの小田島栄一さんとグッドライフの石田義明さんが切実な状況を報告し「施設の中で仲間が殺される虐待がおき続けている。施設は解体しなければならない」と強調しました。

福島からは「原発と障害者」として、あいえるの会の白石清春さんが、「被災地では胎児の障害を心配して『堕胎』しているということも聞く。原発の問題も尊厳死や出生前診断と同じように命をないがしろにしている。原発問題に対して、再稼働させないように、全国の皆さんと運動していく」と強く訴えました。

特別アピールとして、全国青い芝の会事務局長の大橋邦男さんと前会長の金子和弘さんが発言。「障害者差別からの解放運動をやっていかなければ、殺されてしまう。運動を進めよう」。

集会宣言として、政府やマスコミが財政赤字だから仕方がないと主張することに対して「財政赤字は公共事業や無駄な経費、軍事費が原因であり、社会保障に金を回すことは十分に可能だ」と提案され、満場一致で採択されました。

その後、厚労省前に場所を移して様々な発言とシュプレヒコールがあり、10.30 大フォーラムとしての行動を終了しました。

終了後も「問題の核心を突いたとても有意義な集会だった。」など多くの感想が寄せられました。



来年に向けての取組みを

実行委員会では、11月24日に反省会を持ち、今後の方針等を議論しました。

結論的には来年も大フォーラムを開催すること。現在の実行委員会を維持しながら、より幅広く働きかけていくことを確認しました。

次回の実行委員会を下記のように開催します。ぜひご参加ください。

「骨格提言」の完全実施を求める大フォーラム実行委員会

2015年1月24日(土)13:30~16:30

場所：世田谷区宮坂区民センター3F 中会議室

東京都世田谷区宮坂1丁目24-6(東急世田谷線「宮の坂」駅前)

【会計報告】(2014年11月24日現在)

《収入》

前年繰越金	191,500
賛同費	214,000
カンパ	40,955
収入合計	446,455

《支出》

郵送費(事前)	3,570
文具	1,150
看板代	91,800
会議室使用料(8/22、10/4・18、11/21)	14,480
手話通訳	25,208
日比谷野音付帯設備	9,200
日比谷野音使用料	83,500
スタッフ バンダナ	4,320
反貧困全国集会賛同費	3,080
記者会見資料コピー代	300
お茶代(発言者用)	1,274
印刷費用	未済
郵送費(事後)	未済
支出合計	237,882

差引残高 208,573円

※支出には振込手数料が含まれています。

※印刷費用と事後の郵送料は未済です。

※印刷費と報告の発送費などで今後約5万円の支出を見込んでいます。

※残金は、2015年の大フォーラム実行委員会に引き継ぎます。